

こくりゆう だより



大阪府立池田高等学校 1年 吉野 寧 「影の季節」



今後のイベント情報

※場所の記載がないものはとよなか国際交流センターで開催します。



世界とつながる交流カフェ ～ベトナム編～

8月4日(日)14:00～16:00

内 容: ベトナムの飲み物(お菓子付)を飲みながら交流。
民族楽器の体験や多言語の絵本コーナーもあります。

定 員: 20人(申し込みはいりません)

参加費: 無料※ただし、ドリンク購入の場合は別途200円
(高校生以上)100円(中学生)50円(小学生)必要です。

場 所: 庄内コラボセンター「ショコラ」1階カフェスペース
(豊中市庄内幸町4丁目29-1)

おまつり地球一周クラブ ベトナムを知ろう!

8月24日(土)10:30～12:00

ベトナム出身の講師による母国の話と遊びで交流する。

対 象: 小・中学生

定 員: 10人(申込先着順)

参加費: 無料

申 込: 8月22日(木)までに電話・来館・メールで受付。

場 所: とよなか国際交流センター

(豊中市玉井町1丁目1-1 エトレ豊中6階)

【報告①】 5/19 (日) マイクロアグレッション研修：介入編

当協会では活動の参加者だけでなく、活動に関わるボランティア、職員やスタッフも含め、みんなが安心していられる・関わることができる場所を目指しています。2024年2月より、マイクロアグレッション啓発のパンフレット作成を、ボランティアなどから成る10名のワーキングメンバーで進めています。

マイクロアグレッション（以下、M.A）とは、マジョリティがマイノリティに向けて行う日常の中にあふれた無自覚の差別を含んだ言動であり、ほとんどの場合する側に悪意はありません。しかし、例えば「日本語上手ですね」「女性がいたお茶はおいしいね」「ハーフで可愛いね」など、一見誉め言葉に見えても偏見や無意識の思い込みが含まれる発言や行動はM.Aになります。する側は軽はずみにしてしまったとしても、された側はそういった経験を蓄積するほど、精神的ダメージが大きくなっていきます。する側とされた側のギャップが大きいのもM.Aの特徴です。

昨年度は下地ローレンス吉孝さん（立命館大学衣笠総合研究機構研究員）を講師に迎え、M.Aの概念や影響など基本的なことを学ぶ研修を開催しました。さらに理解を深め、自分事として捉えるために、5月19日に実施した今回の講座はヨコタ・ジェリーさん（大阪大学名誉教授）を講師としてお招きし、M.Aへの介入をテーマに研修をしていただきました。講座ではまず、ハラスメントに居合わせたときの介入法「5D」①Distract（注意を逸らす）②Delegate（第三者に協力を求める）③Document（記録する）④Delay（あとから行動する）⑤Direct（直接行動する）について紹介がありました。これを参考にしながら、M.Aの3つの事例について、「第三者としてこの場に居合わせたとき自分ならどうするか」をグループになって、それぞれでじっくり話し合いました。ヨコタさんからのフィードバックでは、M.Aをした人を責めるのではなく、相手との関係性やコミュニケーションをよくしていくために、どういった介入をするのがよいのかを考えることが大切だというお話がありました。

参加者からは「M.Aにあたる行為をしても、謝って、関係を修正していけば良いとおっしゃられたことが心に残った。許したり、許してもらったりしながら人との関係を築けたらと思う。介入の仕方が様々であることで、自分やその場にあう介入を探していきたい。」という感想がありました。

今後もM.Aについて知ることができるパンフレットや、研修等を通して安心・安全な場の実現をワーキングメンバーやボランティアとともに考えていきたいと思っています。（協会職員・カツラシャハラ）



ワーキングメンバーに加えて
子どもの居場所に関わっているボランティアも
参加しました

【報告②】 5/21 (火) 多文化子育て支援ボランティア養成講座

「外国人ママのための場所『おやこ』」「多文化子ども保育にここ」の新規ボランティア希望者に向けた講座を開催し、約11人が参加しました。第二回目は「多民族共生のまちづくりを目指して～『民族保育』の視点から～」と題して、森本宮仁子さん（社会福祉法人聖和共働福祉会法人事務局長／NPO法人IKUNO・多文化ふらっと代表理事）にご登壇いただきました。

森本さんは大阪市生野区にある大阪聖和保育園で40年以上勤務し、在日韓国・朝鮮人の歴史的背景をふまえながら日々の民族保育活動を実践されています。「民族保育」とは、民族教育や多文化共生、人権教育などを融合させた保育です。「あなたはあなたのままでいいんだよ」というメッセージを大事にしている、在日韓国・朝鮮人の子どもたちには「あなたの文化ってすごく素敵だよ」と伝え、日本人の子どもたちには「すぐ横に違う文化を持った仲間もいるんだ」と感じてもらい、両者が「共に生きる」ことを考えてほしいという思いで保育をされています。

実際の保育活動の中で取り組まれているのは「こどもたちのルーツの言葉で挨拶、歌、食育」などです。子どもたちが、自国の出身であることに誇りや自信を持ってもらいたいと考え、未来に繋がる活動をされています。

また最近では、ネパール、ベトナム、中国など様々な国につながる子どもたちも増えています。このことから、「民族保育」から「多民族保育」にも取り組まれています。



講師の森本さん

ほかにも、大阪聖和保育園の隣にある「いくのパーク」についてもご講演いただきました。「誰もが暮らしやすい、全国No.1のグローバルタウンを創る」ことを目指して、様々な活動が展開されており、この場所が「共生のとりで」を目指していく場所であるということを紹介していただきました。

参加者からは「日本で暮らす外国人が抱えている壁について深く考えさせられました」「自分に何ができるのか考え続けていきたい」などの感想が寄せられました。

「外国にルーツを持つ子どもたちの将来や、子どもたちが社会でどう生きていくか」「マイノリティの課題をマジョリティ側の課題であると認識していかなければいけない」ということをボランティアとともに考えていく講演となりました。（協会職員・安村梨紗）

『春は奪われた』

協会事業（哲学カフェ、プロジェクト“まんがふえ”等）に参加していた辻明典さんが、2013年度より故郷である福島県南相馬市に戻り、教員をしています。辻さんからの福島からの便りをどうぞ。

「しかし、いまは野を奪われ 春さえも奪われようとしているのだ」

近代朝鮮の代表的な詩人である李相和（イ・サンファ）の、『奪われた野にも春は来るか』という作品の中の一節です。春が巡り来る度に、私はこの詩文にとらえられてしまいます。原子力災害によって汚染された土地にも、春は巡ってきます。自然的な意味での春です。しかし、感じられるものとしての春がやってくることはありません。春は、奪われたままなのです。

先日、ふと思い立ち、浪江町を歩いてみました。自分の足で歩かなければ、見えてこない風景もあると思ったのです。映り込んでくるのは、所々にある更地と、人の住まなくなった家々ばかり。時折、住民の声があるのが救いでしたが、実際にここに住んでいる方々は、果たしてどれくらいいるのでしょうか。私はといえば、変わり果てた風景を前にして、かつてこのあたりにあったはずの、友人の家の場所や、その色やかたちさえも、もう思い出せませんでした。

浪江小学校があった場所は、更地になっていました。子どもたちがここで春を探す日常は、戻ってはこないのです。依然として、奪われたままの春は巡ってきます。これが、原子力災害のリアリティなのです。

帝国主義の侵略によって土地を奪われたことと、原子力災害によって土地を奪われたことを重ねるように描くのは、適切ではないという批判もあるでしょう。侵略した側の子孫であり、加害の歴史を負っている「日本人」の私がこんなことを申し上げるのは、あまりに無邪気で、あまりに無自覚ではないかと、疑問を覚える方々もおられるでしょう。しかしながら、大きな痛みを経験したからこそ、他者の〈苦痛〉へと想像力を働かせることはできないでしょう。その可能性だけは、手放さないでおきたいのです。



*かつて、浪江小学校があった場所に。

【告知】図書コーナーをご活用ください！

とよなか国際交流センターの事務所横に図書コーナーがあること、みなさんご存知でしょうか。多文化共生や国際理解を知るのに役立つ入門書や専門書、日本語の教材、ヤングアダルト向けの小説や漫画、多言語の絵本など、いろいろな蔵書を取り揃えており、新しい書籍も随時入荷しています。庄内図書館からの団体貸出本コーナーもあり、普段庄内図書館に行かないと借りることができない本（外国語に翻訳された日本の有名小説など）を借りることができます。

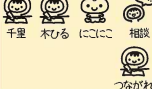
書籍は一人5冊まで、2週間貸出が可能です（日本語教材と辞書を除く）。「こんな本を探している」「こんなテーマの本が読みたいんだけど」「〇〇について知るのにいい本はありますか？」といったことがあれば、お声がけください。みなさんのご利用をお待ちしております。



オープンスペースでゆっくり読むこともできます

2024

8月の事業開催カレンダー

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
29	30	31	01 	02 	03 	04 貸室抽選会  世界とつながる交流カフェ @ 庄内コラボセンター 14:00～16:00
05 	06 	07 休館日	08 	09 	10 	11 山の日  サンブレイス・クッキング 13:00～15:00
12 振替休日	13  サンブレイス・インテンシブ 13:00～15:00	14 休館日	15  サンブレイス・インテンシブ 13:00～15:00	16 	17 	18  サンブレイス・インテンシブ 13:00～15:00
19 	20 	21 休館日	22 	23 	24  世界一周クラブ ベトナムを知ろう 10:30～12:00	25  こども母語・カルナバル 10:00～11:30
26 	27 	28 休館日	29 	30 	31  Teej (ティージ) 13:00～17:00	01

◆赤色で表記している活動については、活動内容を変更している場合があります。詳細については、とよなか国際交流協会へお問い合わせください。

センターが主催する定例事業

月曜日…  ※ひらがな・かたかなが書ける人が対象 	10:00～12:00 11:00～16:00
火曜日…   	10:00～12:00 11:00～16:00 17:00～19:00
木曜日…     	13:30～15:00 13:30～15:00 10:00～11:30 11:00～16:00 19:00～20:00
金曜日…    	10:30～12:00 10:30～12:00 11:00～16:00 17:00～19:00
土曜日…  ※基本、毎月第3土曜日のみ  	9:30～11:30 11:00～16:00 13:30～16:00
日曜日…    	10:00～11:45 10:00～11:30 13:00～15:00 13:00～15:00

今月のピックアップ

ネパール女性のお祭り「Teej(ティージ)」

家族の無病息災を願うと共に、女性たちが深紅のサリーを着て踊り、楽しむネパールの代表的なお祭りです。

日時:2024年8月31日(土)13時～17時

参加費:500円(6歳以下は無料)

対象:ネパール人とその家族

定員:80人、要申し込み ※軽食つき

会場:とよなか国際交流センター



とよなか国際交流センターおしらせ
「こくりゆうだより」第184号(2024年8月号)

発行元・問い合わせ:(公財)とよなか国際交流協会

住所:〒560-0026 大阪府豊中市玉井町1丁目1-1エドレ豊中6F
(阪急宝塚線豊中駅すぐ)

開館時間:9:00～21:30(水曜休館)

TEL:06-6843-4343 FAX:06-6843-4375

E-Mail:atom.s@aazq.jp WEB:http://www.a-atom.s.info/

SNSも随時更新中!

「とよなか国際交流センター」で検索!



多言語情報も配信しています!